

長野県植物研究会創立20周年記念大会

長野県植物研究会の創立20周年の記念事業の実施は、昨年5月18日の昭和61年度総会に提案され、記念大会の開催が決定された。記念事業としては、このほかに、会としては初めての自然観察会を夏期に県内3か所で開くこととし、また、10周年についで20周年の記念号（本誌）を刊行することが決められた。

20周年の記念号には、現在、最先端で活躍中の研究者の方々に寄稿していただくということになり6月に寄稿の依頼をはじめた。

20周年記念大会については、昭和62年のはじめに行うこととし、昭和61年秋から準備の取り組みが始められた。今回の大会で最大の関心事は、記念講演の講師の件であった。長野県は寒冷地であることから、植物と寒さの関係については、分類・生態・地理のいずれの分野においても関心が高いと考えられるので、ぜひとも寒さをテーマとした植物の話が聞きたいということになり、植物と寒さの関係の権威である北海道大学名誉教授の酒井昭先生の名があげられた。早速北海道の酒井先生のお宅に電話したところ2月1日（日）の大会予定日に御講演をお引き受けいただけるとの御返事で、以後、幹事会は2月1日の記念大会を目指して準備にとりかかることとなった。

記念大会には、会員の一般講演も予定し、会員に対して大会の案内とともに講演への呼びかけを行った。講演には次の9つの演題が申し込まれ、20周年を記念するのにふさわしい内容とすることができた。

〔一般講演の演者と演題〕

1. 長野県の植物一新知見あれこれー 奥原 弘人
2. 長野県産チャセンシダ *Asplenium* のの種間雑種の識別について 大塚 孝一
3. 琉球列島のスマレ 浜 栄助
4. 日光戦場ヶ原湿原の10年間の動態 松田 行雄
5. 都市公害の症状と薬害・酢酸について 柳沢 新一
6. 木本植物の開芽過程 渡辺 隆一
7. 伊那地方の天然生アカマツ林の種組成と地位指数の関係 馬場多久男
8. 長野県における人工植生 大木 正夫
9. 東南アジア・南太平洋地域のマングローブ 中村 武久

座長は大木正夫、和田清の両氏にお願いした。

会場は松本市勤労者福祉センターとした。10周年

の記念大会と同じ会場である。

2月1日は冷え込みがきつい日であったが、受付けのはじまる8時30分ごろから続々と会員、一般の方々が参集され、9時の開会には会場は100人ほど埋めつくされた。

大会の冒頭、塩川文部大臣、唐沢郵政大臣からの祝電が披露され、続いて清水建美会長の挨拶があった。会長は20年間の歩みをふり返り、念願の「長野県植物誌(仮称)」の完成に向けての努力と、30周年に向けての一層の発展を訴う意欲的なお話をされた。

一般講演は9時20分から12時20分まで行われ、昼食後、午後1時から3時まで特別講演が行われた。

特別講演の演題は「低温に対する植物の適応戦略」であり、酒井先生のこれまでの低温と植物の関係についての研究の御成果を、豊富な資料と世界各地の森林のスライドを使ってお話いただいた。

特別講演の司会は柴田治氏にお願いした。講演の後で、短い時間を惜しみつつ、多くの質疑がなされた。講演会終了後、別室で記念パーティーが中山洸氏の司会で行われた。参加者は36人であり、会の創立以来のメンバーも多く、1時間半の予定時間はまたたく間に過ぎてしまった。

今大会の成功は、御後援いただいた、信州大学、松本市教育委員会、松本商工会議所、信濃教育会、長野県、信濃毎日新聞社と、幹事の方々の御尽力によるものであり、記して深甚の謝意を表します。

(幹事代表 亀山 章)

